

全

力



ソサイチ日本代表
ブラジル激戦記

疾

走



Official Wear Supplier

オフィシャル ウェア サプライヤー



Official Support Company

オフィシャル サポート カンパニー



ごあいさつ

ソサイチ日本代表ブラジル遠征プロジェクトへ多大なるご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

多くの方のご支援により、無事に終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

現地滞在期間中は、親善試合を3試合、CUP戦を3試合と合計6試合をブラジルの強豪クラブを相手に戦いました。

結果としては「全敗」。あと一步のところまで追い詰めた試合もあれば、まったく歯が立たなかった試合もありましたが、どんな内容の試合でも、終了のホイッスルが鳴るまで全力で戦い抜く選手の姿には、チームが一丸となってなにかにチャレンジすることの素晴らしさを改めて教えられ、心の底から感動しました。

クラウドファンディングプロジェクトはこれで一区切りとなりますが、皆さまのサポートにより実現した「ソサイチ日本代表」の活動はまだ始まったばかりです。

引き続き、ソサイチ日本代表や公式リーグをはじめとする当連盟の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



一般社団法人日本ソサイチ連盟

代表理事 馬場貴嗣

遠征概要

2017年に開幕した国内ソサイチリーグの所属選手を中心に日本代表チームを結成。
 ブラジル・リオデジャネイロ州のノバフリブルゴにて、
 現地ソサイチリーグ（通称：リオ・リーグ）の強豪6クラブとの対戦に挑んだ。



— 遠征日程 —

2017年9月11日(月)～19日(火)

— 遠征先 —

ブラジル リオデジャネイロ州 ノバ・フリブルゴ

— 大会名 —

2° TORNEIO ARENA FRIBURGO FUT7



— 試合日程 —

- 9/13(水) 親善試合
日本 vs Rio São Paulo
- 9/14(木) 親善試合
日本 vs FLUMINENSE
- 9/14(木) 親善試合
日本 vs VASCO DA GAMA
- 9/15(金) 大会
日本 vs ARENA FRIBURGO
- 9/16(土) 大会
日本 vs BOTAFOGO
- 9/16(土) 大会
日本 vs FLAMENGO



遠征地



Nova Friburgo
 ノバ・フリブルゴ

ブラジルの南東部に位置するリオデジャネイロ州中部の都市。州都リオデジャネイロの北東約100km、マル山脈東部のノバフリブルゴ山脈中にあり、標高は約850m。スイスのフリブールからの移住者が建設したアルプスの山村風の町で、夏の保養地として知られる。繊維、織物を中心とする工業も盛んで、治安も良い。



Corrida marta

全力疾走

loja virtual
DE CHELLIS



選手・
スタッフ
紹介



HISHINO SUBARU
#1 GK 星野 昂
【所属チーム】 EL AGUA ALICANTE
171cm / 64kg
1992/8/3

Profile
ソサイチ日本選抜 2016 スペイン遠征
現在は保健体育や特別支援学級の教員を務め、ソサイチやサッカー、全てのスポーツの楽しさや素晴らしさを子どもたちに伝える活動を展開している。



OKADA TAKUYA
#5 DF 岡田 卓也
【所属チーム】 FC VA VINCHI
171cm / 75kg
1993/11/28

Profile
コニーリョ中山FC
甲南中学校サッカー部
甲南高等学校サッカー部
ソサイチ日本選抜 2014 シンガポール遠征
ソサイチ日本選抜 2016 スペイン遠征



#6

SAITO IBUKI

DF 齋藤 勇吹

【所属チーム】 FC VIOLA

175cm / 68kg

1996/11/8

Profile

フットワーククラブ (ジュニア)

寒川東中学校サッカー部

寒川高等学校サッカー部

ソサイチ日本選抜 2016 タイ遠征

ソサイチ日本選抜 2017 スペイン遠征



#8

MORI TAKASHI

MF 森 崇

【所属チーム】 新世界制覇

175cm / 64kg

1993/1/20

Profile

市立浦和高校 (3年時主将)

・新人戦県大会 優勝

・全国高校総体 出場

・埼玉県選手権大会

1年時優勝 2、3年時 優秀選手

・新潟国体 U-16 埼玉県選抜



#7

HANAOKA KEITA

MF 花岡 慶太

【所属チーム】 P LEAGUE

165cm / 60kg

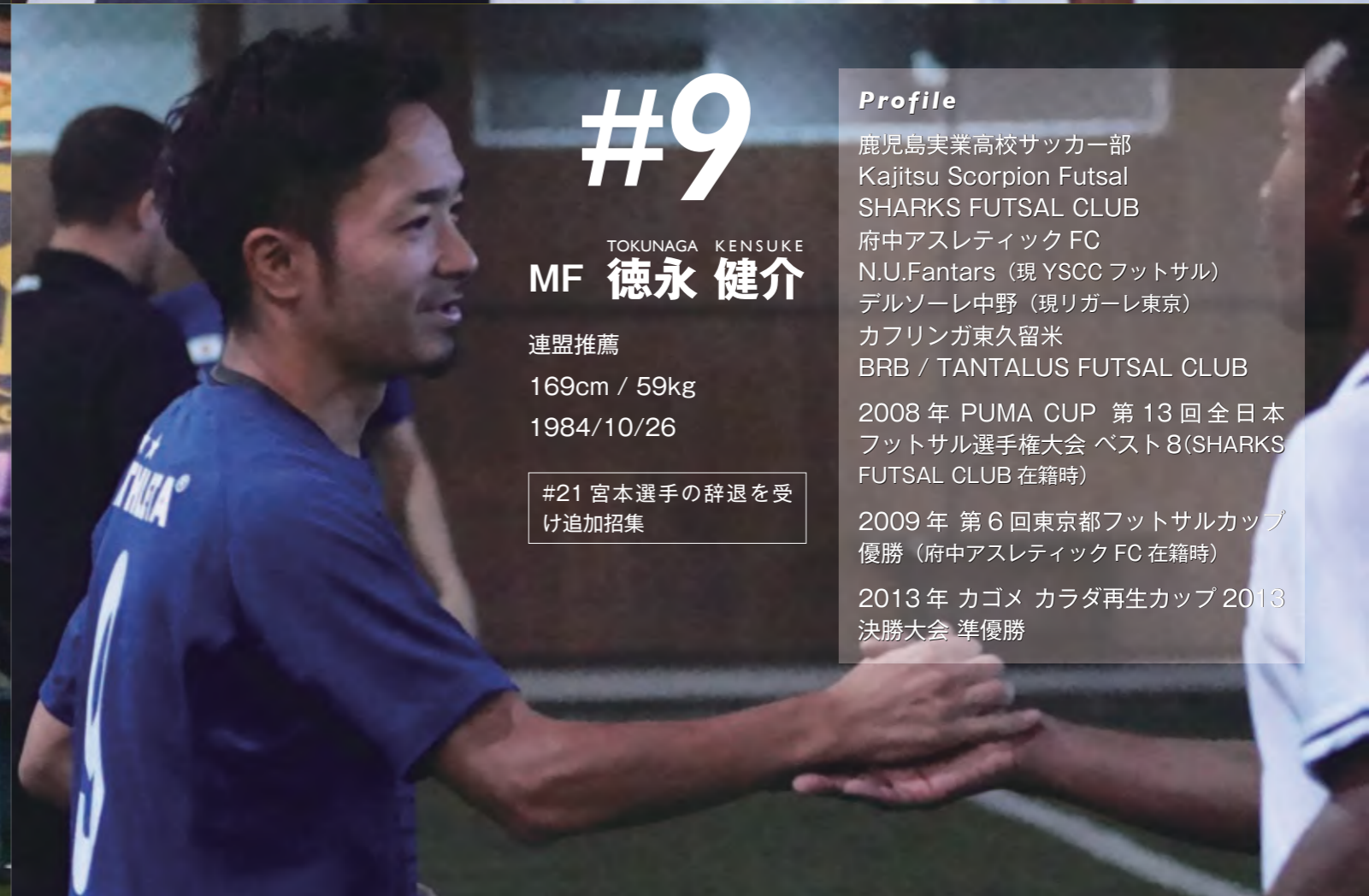
1984/10/26

Profile

JEF UNITED 市原 Jr. ユース

U-15 全日本ユース選手権 全国制覇

2015年6月に新庄翔太とともに発足させたフットボールリーグ『P_LEAGUE』主宰
2017年より adidas football と全面協力し、『TANGO LEAGUE supported by P_league』に名称を変え、東京 No.1 のフットボールコミュニティを目指し活動中。



#9

TOKUNAGA KENSUKE

MF 徳永 健介

連盟推薦

169cm / 59kg

1984/10/26

#21 宮本選手の辞退を受け追加招集

Profile

鹿児島実業高校サッカー部

Kajitsu Scorpion Futsal

SHARKS FUTSAL CLUB

府中アスレティック FC

N.U.Fantars (現 YSCC フットサル)

デルソーレ中野 (現リガーレ東京)

カフリング東久留米

BRB / TANTALUS FUTSAL CLUB

2008年 PUMA CUP 第13回全日本

フットサル選手権大会 ベスト8 (SHARKS

FUTSAL CLUB 在籍時)

2009年 第6回東京都フットサルカップ

優勝 (府中アスレティック FC 在籍時)

2013年 カゴメ カラダ再生カップ 2013

決勝大会 準優勝



Profile

大宮アルディージャユース
ザスバ草津チャレンジャーズ
栃木ウーヴァ FC

ソサイチ日本選抜 2016 スペイン遠征
ソサイチ日本選抜 2016 タイ遠征

#10

NAKAGAWA TAKAHARU
FW **中川 貴晴**

【所属チーム】 EL AGUA ALICANTE
170cm / 67kg
1991/10/31

#12

NARITA RIKIYA
GK **成田 力哉**

【所属チーム】 P_LEAGUE
185cm / 76kg
1987/10/2

Profile

明秀学園日立高等学校
垂細亜大学
malva FC
ハートフル 2014
FC VOLT
FC オブセーノ
ナメック星人
枝 D 学園



#11

HIKITA AKINORI
FP **疋田 朗寛**

【所属チーム】 FLORESTA
173cm / 64kg
1987/12/4

Profile

みつわ台 FC
ウイングス SS 習志野
・高円宮杯全国 3 位
市立千葉高校
千葉大学
・千葉県大学リーグ敢闘賞受賞 (大学 4 年時)

#14

WAGATSUMA TAKAMITSU
DF **我妻 貴光**

連盟推薦
180cm / 76kg
1991/9/27

Profile

ポカルス FC
ポカルス Jr. ユース
千葉敬愛高等学校 サッカー部
東邦大学 サッカー部
ドイツ / モンテネグロ サッカー短期留学
ソサイチ日本選抜 2011 イングランド遠征
ソサイチ日本選抜 2013 タイ遠征



#17 MF 浦部 賢次

【所属チーム】BRINCAR FC
165cm / 63kg
1983/8/11

Profile

和霊サッカー少年団
エスペランサ宇和島 FC
城北中学校
愛媛県立吉田高等学校
テクノネット大阪
レキオス BS
コニカミノルタ SC 豊川
名古屋クラブ
豊田自動織機サッカー部

レキオス BS 所属時
全日本ビーチサッカー大会 優勝
レキオス FC 所属時
PUMA CUP 2007 全国大会出場
名古屋クラブ所属時
全国クラブ選手権大会 準優勝



#32 DF 佐藤 健太

【所属チーム】P_LEAGUE
182cm / 70kg
1987/6/16

Profile

クリアージュ FC
法政大学第二高等学校

2010年より社会人リーグに所属しながら、釜本サッカー教室などに帯同し、サッカーの楽しさやスポーツの面白さを子どもたちに伝える活動を積極的に行う。現在は『TANGO LEAGUE supported by P-league』に参戦。プレーヤーとして日々の努力を惜しまずに真剣勝負を楽しむ FOOTBALL LIFE を送っている。



Profile

レッツ FC
Rayo Vallecano B
(スペイン 4 部)
TANABI
(ブラジル・サンパウロ州 4 部)
(U-23 フットサル選抜)
José Bonifácio
(サンパウロ州 4 部)
いわきアピレーション
福島ユナイテッド FC
サウルコス福井
FC 刈谷



#21

MF 宮本 祐樹

【所属チーム】OUSADIA
165cm / 58kg
1985/2/15

負傷により遠征への参加は
辞退

#70 MF 青沼 広己

【所属チーム】Leste mar
169cm / 63kg
1983/3/18

Profile

・サッカー
柏レイソルジュニア
浦和レッズジュニアユース
我孫子中学校
東海大浦安高校
・フットサル
東海ボーイズ
グロリアス
松戸クラックス
AC セニョール千葉
柏 TOR' 82
FC mm



#TD

Technical Director

K A I S H U J I
甲斐 修侍

Profile

AZUL
ESPORTE FUJISAWA
CASCAVEL TOKYO
CASCAVEL FUTSAL CLUBE
(ブラジル)
CASCAVEL TOKYO
ASSEN (ブラジル)
CASCAVEL TOKYO
ASV PESCADOLA MACHIDA
(Fリーグ)

小学3年で大阪の高槻松原FCでサッカーを始める。第7回全日本少年サッカー大会で全国3位。中学2年時にはJr.ユース日本代表に選出。阿武野高校から関西社会人1部リーグ東大阪FCを経て、京都のKYOKEN FCに所属し、京都府の国体選手として愛知県で開催された「わかしゃ国体」で優勝。25歳のときに山梨県でフットサルチーム「AZUL(アズー)」を結成し、第3回全日本フットサル選手権で準優勝をする。その後、神奈川の「エスポルチ藤沢」を経て、1999年にペスカドーラ町田の前身となる「CASCAVEL(カスカヴェウ)」を設立。2001年には日本人初のプロフットサル選手としてブラジルでプレーするなど、黎明期からフットサル界を牽引する。2017年5月に行われた自身の引退試合には、ブラジルから「フットサルの皇帝」と呼ばれるファルカンも駆け付けた。

今回のブラジル遠征に先立ち日本ソサイチ連盟からテクニカルディレクターへの就任を打診。開幕したばかりの公式リーグや初めてのブラジル遠征といった部分に「黎明期のフットサルに似た部分」を感じ、ソサイチ日本代表チームの指揮を執ることとなった。



Profile

経歴

ASV ペスカドーラ町田の前身である「CASCAVEL TOKYO」にて2005年まで選手としてプレー。以降、ASV ペスカドーラ町田の専属トレーナーを経て、現在は行徳中央病院リハビリ科主任。

保持資格

柔道整復師
日本体育協会アスレティックトレーナー(AT)



Medical &
Conditioning Trainer

S E K I N E M I T S U R U
関根 充



日本ソサイチ連盟スタッフ



馬場 貴嗣

日本ソサイチ連盟 代表理事

Staff



照井 亮介

日本ソサイチ連盟 理事

Staff



福満 俊也

日本ソサイチ連盟 事務局

国内活動

国内では7/15、7/23、8/13、8/26の4日間でトレーニングを行い、戦術理解度や組織力を高めた。8/13に行った実戦形式のトレーニングマッチでは、ブラジルのソサイチチームがフットサルの戦術を多用してくることを想定し、関東フットサルリーグ1部に所属する強豪「ZOTT WASEDA FUTSAL CLUB」と対戦するなど、短い時間の中で可能な限りの準備をして遠征に臨んだ。



Japão



Brasil



ブラジルでの活動

本場ブラジルのトップクラブの実力は、想像をはるかに超えるものだった。コンディションを調整するうえで非常に厳しい環境ではあったが、ひとつの目標に向かう選手たちのエネルギーは素晴らしく、どんな状況でも前を向いて戦っていた。現地ではテレビの取材も入り、ソサイチに対する注目度の高さを肌で感じる事ができた。

クラブ名は、リオ・デ・ジャネイロにあるクラブ本部に隣接する道路名であることに由来する。リオのFUT7リーグでは、本遠征時に暫定首位と、常に上位に位置する実力派クラブ。

リオ・ビッグ4の一角。フルミネンセとは、リオ市内出身者がカリオカと呼ばれるのに対し、リオ市以外のリオ・デ・ジャネイロ州の出身者という意味がある。リオFUT7リーグでは、中位に位置するクラブ。かつて、サッカーチームには、浦和レッズで活躍したワシントンが在籍していた。



ソサイチ日本代表 親善試合 ブラジル激戦記
ブラジル・ノバ フリブルゴ アリーナ・フリブルゴ

リオ サンパウロ
vs. *Rio São Paulo*

2017.9.13
Wed
15:30
kickoff

相手は9/9時点でリオソサイチリーグの暫定首位のRio São Paulo。ソサイチ日本代表は前日に現地入りしたばかり。ベストとは言い難いコンディションで、強豪との初戦に臨んだ。長身の選手が多くフィジカルの強いチームをイメージしていたが、実際はボールを操る技術も非常に高かった。移動疲れや時差ボケもあったが、選手たちは高い集中力を保ち躍動する。結果だけを見ると1-8と大差をつけられたものの、全く歯が立たない相手ではなかった。数々のチャンスを創り出しながらも、得点に結びつけることができなかったのが主な敗因。決定力が結果を大きく左右するということを思い知らされた日本代表の初陣だった。

ソサイチ日本代表 親善試合 ブラジル激戦記
ブラジル・ノバ フリブルゴ アリーナ・フリブルゴ

フルミネンセ
vs. *Fluminense*

2017.9.14
Thu
14:30
kickoff

第2戦目の相手はリオリーグでは出だしが遅れ下位に低迷しているFLUMINENSE。序盤からうまくペースを握られ、日本代表はなかなか自分達のリズムに乗ることができない。試合の流れを読むチカラ。数少ないチャンスで決め切る決定力。古豪の巧みなゲーム運びに、勝てそうで勝てないもどかしさを味わわれた試合だった。



1 — 8
●○○●● 1st 1-4 ●○○○○●
ファール数
●○○●● 2nd 0-4 ●●●○○●



1st 17分 #10 中川 貴晴	2nd	1st 9分 #20 Rafael 10分 #17 Yago 12分 #17 Yago 21分 #8 Serginho	2nd 4分 #2 Gabriel de Jora 16分 #7 Junior Bero 19分 #7 Junior Bero 23分 #4 Ped roka
----------------------	-----	---	---



0 — 2
●○○●● 1st 0-1 ●○○○○●
ファール数
●○○●● 2nd 0-1 ●●●○○●



1st	2nd	1st 19分 #8 Saldanha	2nd 21分 #9 Calros Andre
-----	-----	------------------------	----------------------------



リオ・ビッグ4の一角。クラブ名は、ポルトガルの探検家バスコ・ダ・ガマに由来し、ポルトガル系移民によって作られたクラブ。たすき型の伝統的なユニフォームは世界的にも人気を誇る。リオのFUT7リーグでは最多優勝回数を誇る強豪プロクラブ。かつて、バスコ・ダ・ガマのサッカーチームには、ダウンガなどの著名な選手を輩出している。



リオ・デ・ジャネイロ市内から約100kmに位置するノバ・フリブルゴを拠点とするソサイチクラブ。ソサイチ専用アリーナを所有し、今大会の試合会場として使用した。リオのFUT7リーグでは、中位に位置するクラブ。監督のクラウディオ・オカサキは、1992年-1993年に横浜マリノス(現横浜Fマリノス)に所属歴のある元Jリーガーだ。



ソサイチ日本代表 親善試合 ブラジル激戦記
ブラジル・ノバ フリブルゴ アリーナ・フリブルゴ

バスコ・ダ・ガマ

vs. Vasco da gama

2017.9.14
Thu
20:30
kickoff

親善試合にもかかわらずベストメンバーを揃えてきた Vasco da Gama。リオリーグ最強と呼び声の高いチームは、段違いのスピードで、ほぼミスのない正確なパスワークを繰り返す。独特なリズムのドリブルや、フットサルの戦術を織り交ぜた攻撃に翻弄された日本チームは、ここまでの2試合とは全く次元が違うレベルのソサイチを体感。手も足も出ず、完膚なきまで叩きのめされた。



0 — 9
●○○○○ 1st 0-3 ●○○○○
ファール数
●○○○○ 2nd 0-6 ●○○○○



1st	2nd

1st	2nd
0分 #25 Paulinho 6分 #10 Wruck 11分 #17 Wesley	2分 #2 Chico 6分 #9 Mikimba 8分 #21 Pulga 10分 #18 Daba 19分 #17 Wesley 24分 #5 Juninho



ソサイチ日本代表 親善試合 ブラジル激戦記
ブラジル・ノバ フリブルゴ アリーナ・フリブルゴ

アリーナフリブルゴ

vs. Arena Friburgo

2017.9.15
Fri
18:00
kickoff

CUP戦「ARENA TORNEIO」の初戦。対戦相手は試合会場をホームとする、アリーナフリブルゴ。開始早々に先制点を許すも前半のうちに同点に追いつくと、後半開始直後に得たフリーキックをきっかけに逆転に成功。その後同点に追いつかれたものの、再度逆転。勝利を掴める雰囲気は漂う中、日本チームのファールカウントが増え続け6つ目のファールを犯す。「シュートアウト※」で同点ゴールを許すと、勢いづいた観衆の声援を受けたホームチームに立て続けにゴールを決められてしまう。その後、PKを得るなど反撃の兆しを見せたが、チャンスをものにできず万事休す。接戦を制することができなかった悔しさから、涙する選手も多かった。

※ソサイチ独自のルールで、一種のペナルティキックのようなもの。ハーフウェイライン手前5メートルの位置からゴールに向かってドリブルを開始するシューターと、ゴールキーパーが1対1で勝負をする。シュートアウトには制限時間が設けられていて、シューターが5秒以内にシュートを打てなければノーゴールとなる。直接FKに相当するファールカウントが6つ目以降になると、シュートアウトが適用される。



3 — 5
●○○○○ 1st 1-1 ●○○○○
ファール数
●●●●●● 2nd 2-4 ●●●●●●



1st	2nd
20分 #7 花岡慶太	2分 #10 中川貴晴 18分 #10 中川貴晴

1st	2nd
12分 #2 Lucas	14分 #9 Coroeiro 20分 #8 Cafe 21分 #10 Rodrigo 23分 #9 Coroeiro



リオ・ビッグ4の一角。クラブ名は、クラブの創設地がリオ・デ・ジャネイロのポタフォゴ地区であることに由来する。リオのFUT7リーグでは、常に上位チームに位置する強豪プロクラブ。

リオ・ビッグ4の一角。クラブ名は、クラブの創設地がリオ・デ・ジャネイロのフラメンゴ地区であることに由来する。かつて、フラメンゴのサッカーチームには、ジーコ、ロナウジーニョなどが在籍していた。ソサイチにおいてもブラジル全国選手権優勝歴を持つ強豪で、リオで最も人気のあるプロクラブだ。



ソサイチ日本代表 親善試合 ブラジル激戦記
ブラジル・ノバ フリブルゴ アリーナ・フリブルゴ

ポタフォゴ
vs. **Botafogo**

2017.9.16
Sat
14:00
kickoff

「ARENA TORNEIO」の第2試合。現地リーグ戦で上位につける名門ポタフォゴと対戦。これまでの試合の反省を生かし、ボールに対し積極的にプレスをかけていくが、対応の遅れなどの隙をつかれ立て続けに失点する。相手ゴールキーパーのスーパーセーブなどでチャンスをものにできない日本の攻撃陣だったが、前半終了間際に得たPKでなんとか1点を返す。後半、これまでDFで出場していた我妻をトップで起用すると、それが功を奏し後半4分に得点。1点差まで詰め寄る。その後、膠着状態が続いたが、後半12分にスローインからヘディングシュートを決められると、その後も連続で失点。なんとか一矢報いたい日本は、森が後半17分にショートカウンターから待望の追加点を挙げたが、2点差を縮められずに3-5で試合を終えた。



3 — 5
●○○●● 1st 1-3 ●○○○○●
ファール数
●●●●● 2nd 2-2 ●●●○○●



1st
24分 #10 中川貴晴

2nd
4分 #14 我妻貴光
17分 #8 森 崇



1st
11分 #9 Cae
15分 #11 Makiba
17分 #7 Bambo

2nd
12分 #18 Willian
13分 #11 Makiba



ソサイチ日本代表 親善試合 ブラジル激戦記
ブラジル・ノバ フリブルゴ アリーナ・フリブルゴ

フラメンゴ
vs. **Flamengo**

2017.9.16
Sat
16:35
kickoff

「ARENA TORNEIO」第3試合。バスコダガマとリオリーグの上位を争うプロクラブ、フラメンゴとの対戦。日本は前半立ち上がりからフラメンゴの激しい攻撃にさらされ、防戦一方の展開。前半5分にゴール前で与えたFKから先制されると、自陣でのミスをつかき追加点を許してしまう。前半15分、FKからのクイックスタートでMF花岡が得点し1点差に詰め寄るが、この失点で目つきが変わったフラメンゴに立て続けにゴールを挙げられ1-4で前半を折り返す。後半はフラメンゴの波状攻撃を受けて7失点を喫し、今遠征の最大失点となった1-11でブラジルでの全試合・全日程を終了した。



1 — 11
●○○●● 1st 1-4 ●●●○○●
ファール数
●○○○○● 2nd 0-7 ●●○○○○●



1st
15分 #7 花岡慶太

2nd



1st
5分 #10 Hugo
13分 #23 Thiago
18分 #18 Rafael
24分 #87 Matheus

2nd
0分 #4 Daniel
2分 #90 Jansen
6分 #4 Daniel
9分 #23 Thiago
16分 #11 Leonardo
21分 #7 Andre
22分 #90 Jansen





ソサイチ発祥の地で受けた衝撃

ソサイチ日本代表は9月11日～9月18日でブラジル遠征を行い、フラメンゴ、バスコダガマ、ポタフォゴ、フルミネンセといった強豪クラブとソサイチ（7人制サッカー）で対戦した。日本ソサイチ連盟がこれまで行ってきた海外遠征では、セレクションで広く一般から参加選手を募るスタイルを採用していたが、リーグ元年ということもあり、主にリーグに参戦する優秀なプレーヤーを選出するという全く新しい方法で代表チームを組織した。

チームをまとめ上げるテクニカルディレクターには、昨季までASV ベスカドーラ町田で活躍した「フットサル界のカリスマ」甲斐修待へ就任を打診。開幕したばかりの公式リーグ、初めてのブラジル遠征といった点に「黎明期のフットサルに似た部分」を感じた甲斐が快諾し、チームの指揮を執ることとなった。

また、ピッチの内外で選手を支えるメディカル&コンディショニングトレーナーにはASV ベスカドーラ町田の前身「CASCAVEL（カスカヴェウ）」で甲斐とともにプレーをし、現在は行徳中央病院のリハビリ科に勤務する関根充が就任した。

着々と準備が進むなか、オフィシャルウェアサプライヤーとして「株式会社アスレタ（ATHLETA）」が、オフィシャルサポートカンパニーとして「日本コカ・コーラ株式会社」がそれぞれ遠征活動をバックアップすることも発表された。

国内では7月15日、7月23日、8月13日、8月26日の4日間でトレーニングを行い、戦術理解度や組織力を高めた。8月13日に行った実戦形式のトレーニングマッチでは、ブラジルのソサイチチームがフットサルの戦術を多用してくることを想定し、関東フットサルリーグ1部に所属する強豪「ZOTT WASEDA FUTSAL CLUB」と対戦するなど、短い時間の中で可能な限りの準備をして遠征に臨んだ。

地球の裏側にあるブラジルの季節は冬。日中の暑さと凍えるように寒い夜。長時間のフライトによる疲れや時差ぼけ。コンディションを調整するうえで非常に厳しい環境であることに加え、専属のシェフが帯同しているわけでもなく、通訳スタッフが付きっきりというわけでもない。決して潤沢なサポート体制ではなかったが、そんな中でも選手たち自身の和やかなムードづくりや、ひとつの目標に向かう時のエネルギーは素晴らしかった。現地でもチーム力は日に日に増していくような雰囲気があった。しかし、本場ブラジルのトップクラブの実力は、想像をはるかに超えるものだった。

【親善試合】
 Rio Sao Paulo(1-8) 得点 中川
 FLUMINENSE(0-2)
 VASCO DA GAMA(0-9)

【ARENA TORNEIO】 CUP 戦
 ARENA FRIBURGO(3-5) 得点 花岡/中川 2
 BOTAFOGO(3-5) 得点 中川/我妻/森
 FLAMENGO(1-11) 得点 花岡



結果は6戦全敗。序盤の失点を取り返し、勝利を掴みかけた試合。手も足も出ずに、完膚なきまで叩きのめされた試合。対戦相手によって展開や内容は様々だったが、どんな状況でも全ての選手が全力を尽くし最後まで一丸となって戦い抜いた。

全ての試合を終えたあとの円陣で、「この歳になってまだサッカーしてるの?」「高いお金払って日本代表?」「仕事休んで何してるの?」「そもそも勝つてどうなるの?」そうやってまわりに笑われることも多くあります。でも、今回ソサイチを通じて日本代表に選ばれて、ソサイチ発祥の地ブラジルで本気で戦えたこと。素晴らしい仲間と出会えたこと。これらは素晴らしい経験でした。今の悔しい気持ちを忘れずに、来年また選ばれるように日々チャレンジを続けていきます」と、ある選手はこの遠征について語った。

テクニカルディレクターである甲斐も、自身の経験を振り返りながら選手たちに次のような言葉を贈った。「俺が初めてフットサルをしたのはブラジルへ来た時と、どこか似た衝撃を今回感じました。当時ブラジルに来たことでさらにフットサルの魅力に取り憑かれたし、フットサルに人生を懸けていこうと改めて決意しました。初めてブラジルに来た時、ブラジルのチームに勝てる気配すら無かった。でも今回の遠征、負けはしたものの俺の中では少なくとも3試合は「勝てる」という可能性を感じた試合があったし、みんなよくハードワークしてくれた。短い活動期間ながら、みんな高い意識を持って出来る限りの準備をして今回の遠征に挑んでくれたと思う。今回の遠征に参加したこのメンバーは本当に貴重な体験ができたと思う。ここに来ないと分からない事がたくさんある。そういう遠征だったと思う。もちろん勝てなかったことは俺も悔しい。この悔しさを日本に持ち帰って、それぞれの生活に戻った後も、向上心を持って日々を過ごしてもらえたらと思います。可能であれば年間を通じてこのチームで活動してみたい、そういう気持ちにさせられ

ました。ぜひ、今の気持ちを忘れずに、連盟のみなさんがリベンジの機会を作ってくれるはずだから、その時に備えてもらえたらと思います。ありがとうございました」

代表チームに帯同し、チームの活動を支えた日本ソサイチ連盟のスタッフは「何かに夢中になる事。熱くなる事。本気になる事。それらの気持ちをいくつになっても持ち続けている人は輝いています。この遠征を通じて、より一層そのことを確信しました。今回、初のブラジル遠征ということもあり、選手達には色々なストレスを掛けてしまった面も多々ありました。その点については、本当に申し訳ない気持ちで一杯です。必死で戦う選手達の姿に心が熱くなりました。感動しました。それと同時に、今一度この海外遠征活動全体を見直し、必ず来年、またブラジルの地へ来てリベンジしたい。熱くなったり夢中になったり、その本気になる場がこの「ソサイチ」であれば尚更嬉しく思います。そういった環境を作らねばならないと強く思いました。選手達にはただただ感謝です」と、初のブラジル遠征で感じた想いを伝えた。

南米発祥と言われるソサイチは、ポルトガル語の「Society（=社交、社会の意）」が語源で、主にコミュニティの交流や社交を目的として楽しまれてきたスポーツだ。国内では一般社団法人日本ソサイチ連盟が2006年から競技の普及活動を行っており、冒頭で触れたように、2017年には関東/関西/東海/北海道の4地域で公式リーグが開幕するなど、ここ数年で飛躍的に認知度が高まっている。年間で開催されているソサイチの大会数は2000～3000とも言われ、サッカー/フットサル経験者を中心に広く楽しまれている。

一方で、「ソサイチ」という言葉すら耳にした事が無いサッカー/フットサル経験者も少なくない。「今回、この遠征を行うにあたり、本当に多くの方にご支援、ご協力をいただきました。

- ウェアサプライヤーの ATHLETA 様
 - オフィシャルサポートカンパニーの 日本コカ・コーラ様
 - 選手の怪我のケアに使うキネシオなどを ご提供頂いたキロテーブ様
 - 国内トレーニングにおいて会場手配のご協力を頂きましたエフチャンネル様
 - 不足していた遠征費用をクラウドファンディングなどを通じてご支援いただきました皆様
 - 現地まで応援に駆けつけて下さった選手の御家族
 - トレーナーとして帯同していただきました関根さん
 - テクニカルディレクターを引き受けてくださった甲斐さん
 - 現地でサポートをしてくれたアリーナ(ソサイチ施設)スタッフの皆様、コーディネーターのクラウドイオ・オカサキさん
- その他 SNS などでの活動を周りの方に広めてくださった方々など、全ての方に感謝を致します。
- 我々日本ソサイチ連盟は、まだまだ発展途上の組織です。今回も選手達には色々な負担をお願いしながら、遠征活動を行いました。ブラジルに限った話では無いですが、海外遠征活動をより充実させ、選手達の熱いハートをバックアップしていきたいと強く思いました。まずは国内のリーグ戦/ワンデイ大会を拡充し、一人でも多くの方にソサイチを知ってもらい、だれもがフットボールを楽しめる社会づくりを改めてここに誓います。本当にありがとうございました」と、代表理事の馬場氏は今回の遠征で受けた様々なサポートに対して感謝の意を述べるとともに、「まだ道半ば」という普及活動への意欲を語った。



ソサイチの始まり

「ソサイチ」とはブラジル発祥の7人制サッカーで、その起源は諸説ありますが1950年代にコミュニティの「社交場＝SOCIETY（ソサイチ）」で始まったと言われてい



ます。いまではブラジルを始めとした南米諸国やヨーロッパでも広く生まれ、一つの競技としても徐々に発展を遂げていますが、その起源からもわかる通り、元来ソサイチはコミュニティ内の社交を目的として楽しまれてきました。

さて、それでは日本で初めてソサイチが行われたのはいつか？それは今から15年ほど前の世田谷にあるフットサル場でのことでした。当時、世間は空前のフットサルブームに沸いていました。都内でもフットサル場の数は今ほど多くなく、特に週末



は朝から晩までフットサルを楽しむ人々でコートが埋まっているような状態。そんな中、比較的空きがあった夜遅い時間帯で、常連客や知り合いに声をかけてソサイチ大会を開催したのが「はじまり」だったと記憶しています。

「日本代表」の意義

フットボール界全体の発展に

現在、国内には1000以上のフットサル場が存在するといわれています。すべてのフットサル場がソサイチができるわけではありませんが、日常的にフットボールを楽しめる環境は整ってきていると言えるでしょう。



ソサイチの普及は、フットサル場などの施設を運営する事業者の方にとって、経営資源を有効に活用するための「コンテンツ」が一つ増えることにもつながります。私自身、フットサル場を運営していた経験があるため、今でもこの点への思い入れは非常に強く持っています。

また、ソサイチがフットサル場の安定した経営の一助を担うことができればフットサル界の発展にもつながり、ひいてはフットボール界全体の発展にもつながる。ソサイチにはそんな可能性もあるのではと考えています。



認知度の現状
地道な普及活動を続けてきた甲斐もあり、関東/関西/東海/北海道など

なぜ公式リーグを開催するのか？

日本ソサイチ連盟の設立当初から構想を練っていた公式リーグが、この2017年に4つの地域で開幕しました。この公式リーグには、大きく分けて二つの目的があります。



まずは、より多くの方に、ソサイチを「競技」として知ってもらうこと。そして、「日常的に活動する小さなコミュニティを日本全国にたくさん創る」ということです。

なぜソサイチなのか？

通常のサッカーは人数が揃わなかったり、活動するために必要な施設が少なかったりと、様々なハードルがあり、趣味として気軽に楽しむのは難しいのが現状です。

一方、日本ソサイチ連盟が後援するソサイチのワンデイ大会（1日完結型の大会）の数を見てみると、2011年には約780だった大会数が、2016年には約1500と5年間で約2倍に膨れ上がっています。また、近年ではサッカー経験者だけでなく、未経験者や女性の参加者も目にするようになってきました。

このことから、ソサイチは「気軽に楽しめるスポーツ」であり、またそれを楽しむための環境が整っていると考えることができます。

今回、初の「ソサイチ日本代表」を主に公式リーグに参戦する選手で結成し、ブラジルへの遠征をおこないました。そこで、この日本代表の活動というものがどんな目的で行われているのかをお話しさせていただきたいと思います。

ではだいぶ認知度も上がってきています。しかし、その他の地域ではサッカーを経験している方ですら「ソサイチ」という言葉を知らないということも珍しくありません。

そんな現状の中で、話題性のある日本代表の活動は非常に大きな意味があります。さらに、参加してくれた選手たちは、代表活動を通じてソサイチという競技にさらに強い思い入れをもつようになったと語っています。

そんな選手からの発信で、彼らの周りの方が興味を持つようになるれば、普及活動はどんどん加速していくに違いありません。

今後ソサイチ日本代表は、主に公式リーグに参加している選手で構成してまいります。そうすることで日本代表を目指す多くの選手がチームを結成してリーグに参加してくれるはずで、そしてリーグの規模が大きくなれば、ソサイチの認知度も自然と上がっていくでしょう。

普及という観点から見ても、ソサイチ日本代表というのは非常に重要な役割を担っているのです。



ソサイチ日本代表サポーターの皆様へ

クラウドファンディングにご支援いただき、
本当にありがとうございました。

- | | | | |
|-----------------------------|----------------------------|-------------------|--|
| NewCentral 大泉 菊田 様 | 株式会社 ユーロプラス
インターナショナル 様 | フロレスタ 様 | 山さん 様 |
| 加藤 隆之 様 | no425ko822 様 | 竹中 稔 様 | 中垣内 雅史 様 |
| ラソスソサイチ &
フットサルフィールド齋藤 様 | Nao 様 | nico2 様 | 田月 信行 様 |
| 原 昇平 様 | Tatsuya Terada 様 | Barney 様 | 有限会社 シュート
スポーツジャングル 10
木村祐子・スタッフ一同 様 |
| 須藤 義徳 様 | 神 一世子 様 | Hiro 様 | 蓮沼 美波 様 |
| 田代 恭介 様 | enfermera 様 | 内山 様 | えびお 様 |
| ike 様 | 谷水信一郎 様 | フットボール 様 | 馬りん 様 |
| zelveast 様 | 山田泰久 様 | タイスケ 様 | 日本ちゃちゃちゃ 様 |
| silverlining 様 | Eigo Matsuzaki 様 | カタヤナギユウイチ 様 | 加藤 秀一 様 |
| furu 様 | Hitoshi Hirata 様 | POWER 様 | hisaki 様 |
| 伊敷 和馬 様 | 松田 薫二 様 | やな 様 | あさか 様 |
| kobayashi 様 | valchan 様 | 土居 敬 様 | イワモト 様 |
| 高柳 友子 様 | 金 漢才 様 | 高橋 洋平 様 | 森 健太 様 |
| Holiday 様 | 佐藤 潤一 様 | 穴水 大介 様 | マッシー土屋 様 |
| 森田 俊介 様 | h.matsukawa 様 | 郡司 輝彦 様 | 勝俣 友之介 様 |
| 土井 寛之 様 | 高尾 欣成 様 | nakayamachou 様 | 竹田 秀樹 様 |
| FTW,LLC 様 | 門間 靖 様 | by 様 | 佐藤 宏之 様 |
| 長谷川 洋 様 | 野澤 啓幸 様 | ゆうだい 様 | ジェイ・プランニング 様 |
| イシモト 様 | 米沢 様 | Kengo Moriyoshi 様 | 株式会社 創心建設興業 様 |
| 大友 健寿 様 | 重田 直人 様 | Tetsuya Sato 様 | ゆうさん 様 |
| 永延 達郎 様 | Kazuo Koizumi 様 | T.AONUMA 様 | かきー 様 |
| Miyuki Oonishi 様 | RANGESAIKOYUNA 様 | いぐち 様 | |
| 早川なえ 様 | スッシー 様 | 高橋めぐみ 様 | |

ソサイチ日本代表ブラジル遠征収支報告

収入		支出	
クラウドファンディング	¥1,531,000	渡航費	¥4,183,710
参加費	¥4,274,400	現地滞在費	¥1,911,304
協賛金・寄附金	¥ 979,000	国内活動費	¥ 204,760
		手数料・リターン費用	¥ 589,863
合計	¥6,784,400	合計	¥6,889,637
		収支合計	¥ -105,237



Muito obrigado!

Supported by

ご協賛各社



International Promotion Support Inc.

Leave an impression



株式会社 **ブラジル旅行社**
BRASIL TURISMO CO., LTD.

KILO ALFA



一般社団法人

日本ソサイチ連盟

〒206-0033 東京都多摩市落合 1-47 ニューシティ多摩センタービル 8F

☎042-338-8070 ☎042-316-7402

✉office@j-society.com 🌐http://j-society.com